

長嶺地域コミュニティ協議会だより

平成20年7月7日「蒲原まつり実行委員会」特集号

発行 長嶺地域コミュニティ協議会広報部 発行責任者 丹羽 仁(☎243-0318)

蒲原神社と蒲原まつり

長嶺地域コミュニティ協議会長 丹羽 仁

長嶺地域コミュニティ協議会長として、皆様にご挨拶の機会を与えて頂きましたことに感謝するとともに、そこで私から二つのメッセージをお届けさせていただきます。

一つ目は、800年の歴史と伝統文化を誇る学問の向上と五穀豊穡を祈願する「蒲原神社」を、私たちは常に敬虔の念をもって見守り続けて行きたいと思っております。

二つ目は、庶民のまつりとして300年以上も親しみ、生活の中に根付いてきたまつり文化の代表として「蒲原まつり」をますます盛んにするために「蒲原まつり実行委員会」(実行委員長水本孝夫)を長嶺コミ協と神社やまつり関係者(今日までまつりを支えてくださった組織・団体)など一体となって、この度正式に立ち上げることができました。

地元の皆さんとまつり関係者の皆さんがより連携し、歴史と伝統文化を大切にしまちづくりをしたいと願っています。



身動きできないほどの人出



「蒲原まつり実行委員会」は6月4日実行委員長以下32名の役員で発足、延べ164人で5万人を超える参詣客を捌き、4トン車20台分のゴミを処理し、10数か所のトイレを整備しました。

露店の出店の受付の「蒲原まつり実行委員会」、今年の出店は421店であった。



露店421店の90%は食べ物店です。

蒲原まつりに思う食文化を残して

蒲原町三番四号 長谷川一郎

県下一を競う蒲原まつりも天候に恵まれ無事終わった。私もこの地に住み60年近くになり、すっかりこの地の住民となった。昔から亀田郷の五穀豊穡を占うまつりとして大切なものとされている。

この祭りには笹団子やチマキを作る習わしがあった。伝統とされ郷愁を誘うものがある。

古老の話によると、祭りに備えどこの家でも笹団子とチマキを沢山つくり、親戚や嫁の実家などに届けたものと言う。

また、家から結婚して出たり就職したりして家を離れた人もこの祭りには帰り、友達や同期生などと旧交を温めたという。

近ごろは食生活も変わって来て、余り家で作る人も少なくなった寂しさはある。そんなことで、忘れ勝ちになることも懸念される。

そこで、先人が残した知恵や食物を将来にわたって残してゆく大切さがあると思う。そんなことから、学校の給食はじめ公民館活動を通じ、地域の先人が残した食文化を見直し取り入れ、若い人に伝えていって欲しいものである。

笹団子はじめチマキ・漬物・味噌など、地域ならではのおふくろの味をいつまでもと祈る私である。